

アジア女性史の構築

大阪大学 大学院人間科学研究科 教授

藤目 ゆき



研究の背景

20世紀は先進諸国で女性の地位が向上し、男女平等が進んだ世紀でした。しかし同時に、二つの世界大戦が引き起こされ、核戦争の脅威に世界が覆われる「冷戦」政治が展開した世紀でもありました。20世紀末に冷戦は終焉し、また女性のキングアウトを背景に国際社会は戦時性暴力を戦争犯罪として認知するようになりましたが、アジアには冷戦構造が残り、軍事的性暴力は今日に続いています。

従来、日本の女性史研究では、日本女性が欧米先進国なみに高い地位を獲得した歩みに関心が集まる一方、日本の植民地主義や戦後の冷戦政治の犠牲になったアジア女性の存在は無視されがちでした。特に現代史に関しては、戦後日本の女性解放は大きなテーマでしたが、アジアの女性が経験した冷戦下の受難と抵抗はほとんど何も知られていない状態でした。

研究の成果

2004年に内外の研究者の協力を得てアジア現代女性史研究会を設立し、「冷戦とジェンダー」をキーワードにアジア女性史の研究プロジェクトを始めました。

プロジェクトの一つの柱はアジア現代女性史シリーズの出版です。現在までにタイ、ビルマ、中国、台湾、韓国、インドネシア、ベトナムの女性史に関する8冊の図書の邦訳を刊行しました(図1)。国際的な人身売買、民族解放戦争下の女性たち、反独裁・民主化を希求する女性運動など、アジア女性史の諸相がこれらの図書から浮かび上がります。

もう一つの柱は、年報『アジア現代女性史』の刊行です(図2)。2005年に創刊し、これまでに「インドネシア・1965年」、「ベトナム戦争と女性」、「朝鮮戦争と女性」、「広島湾軍事三角地帯」、「駐韓米軍と『基地村』の女性たち」、「WIDFの朝鮮戦争真相調査団に参加した女性たち」などの特集を組みました。

これらの研究によって、冷戦に強く規定されたアジア女性史の全体像へと接近し、日本女性史をアジア

女性史という広い枠組みの中で見なおす手がかりができました。これらは、一国史的で欧米指向の女性史観から離れて、アジアの女性と共に生きる未来を拓くことにつながる新しい女性史の構築に向けて、その基礎を築く成果であるといえます。

今後の展望

アジア現代女性史シリーズの一環としてモンゴルとフィリピンの女性史に関する図書を出版すること、国際女性運動に関する研究成果を発表することが、次の大きな目標です。冷戦が激烈な時期にも鉄のカーテンを越えて連帯する様々な女性たちの国際運動があり、それらがアジアの女性運動に多大な影響を与えたという事実があります。が、それらは冷戦的な思考枠組みでは見過されがちでした。このようなアジア女性史上の事実を掘り起こして光をあて、新しい女性史像を呈示することによって、日本・アジアはもとより世界女性史に寄与したいと思っています。

関連する科研費

平成16-19年度 基盤研究(A)「アジア現代女性史の研究:北東及び東南アジアにおける軍事主義とジェンダー」
平成21-23年度 基盤研究(C)「アジア現代女性史の研究:冷戦時代の国際女性運動とアジア」
平成24-28年度 基盤研究(B)「冷戦時代の国際女性運動」

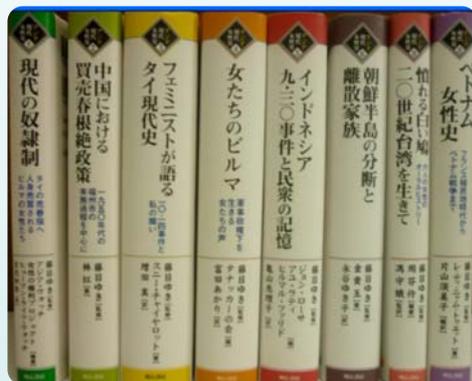


図1 アジア現代女性史シリーズ 既刊の8冊

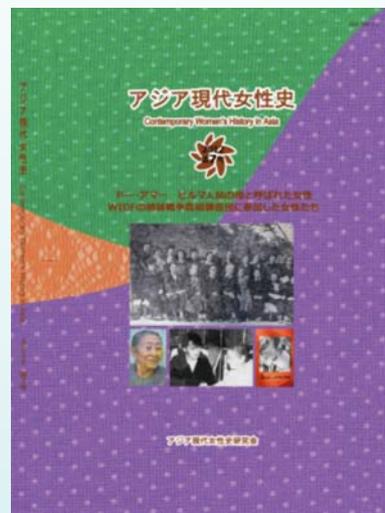


図2 『アジア現代女性史』第7号、2012年1月